



栄光園だより
第132号
2023年7月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
<http://www.eikoen.jp/>
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

子どもへのまなざし

社会福祉法人 栄光園 監事
大分大学 福祉健康科学部 准教授

滝口 真



大学生になって初めての夏休みの出来事。郷里への帰省途中に児童養護施設に立ち寄り10日間の宿泊ボランティアの機会に恵まれました。その時の二人の子どもとの出会いは忘れられないものとなりました。

1. 信ちゃんとの思い出

信ちゃん(仮名・小4)の誕生日の当日、お母さんが施設にケーキとプレゼントを持ってお祝いに来てくれる日が訪れました。カレンダーに「信ちゃんママ来る」の赤丸印を指さし、数日前から信ちゃんはソワソワして、当日も早朝から園の門の前で炎天下の中お母さんを待っていました。午後になっても、夕刻になってもお母さんの姿は

ありません。夕食の時間になり、信ちゃんは、「僕には、ママはいらんけえ、ママなんか知らんよ」と寂しく私に訴えました。当時18歳の私は、信ちゃんの気持ちに寄り添い、同調して、「ママなんか、ええじゃない。わしと一緒楽しく遊ぼうや」と伝えました。すると信ちゃんは目の色を変えて、大粒の涙を出しながら、「なんでママのことを悪く言うんじや」と泣きながら殴ってきました。私の深い古傷であり、忘れられない、忘れてはならない大きな出来事です。

何故にあの時、「ママは特別な用事が出来たから信ちゃんに会いに来れなかったかもしれないね。」と一言伝えられなかったのか。共感とは何か。言葉の背後にある子どもの思いとは何か

を痛いほど教えられた信ちゃんからのメッセージでした。

2. 香子さんの思い出

子どもたちの消灯時間は21時でした。香子さん(仮名)だけは高校3年生ということで木曜日の消灯は22時と1時間延長されていました。当時、高視聴率の歌謡曲テレビ「ザ・ベストテン」が香子さんの楽しみな時間でした。高校からの下校途中にスーパーのアルバイトで進学資金を貯め、新米の保育士に代わり学童期前の子どもたちのお世話と調理等、自らの事は全て後回しでした。ようやく片づけを終えて、一週間で一日のみ21時半過ぎに職員室でテレビが見れるのです。テレビを見ながら香子さんは、「ほっ」とため息をつきました。それは、全くの無意識でした。瞬時に香子さんは「ため息なんかついてすみません」と目が合った私に対して詫びてきたのです。その光景に私は今も胸が絞めつけられます。

多感な高校生の自由な開放時間に周囲を気にしながら、毎日を過ごしている香子さんの日常に対して、私自身の数カ月前までの高校生活を振り返り、恥ずかしさと申し訳なさで心がいっぱいになりました。その後、香子さんはアルバイトでの実績が認められ、高校卒業後はスーパーでの正社員を経て、学費と生活費を貯蓄したうえで福祉系大学へ進学しました。現在は、児童養

護施設のファミリーソーシャルワーカーとして自らの経験を活かし、その職責を果たしています。

3. 子どもへのまなざし

先月、栄光園の「親子訓練棟」で宿泊体験をしました。季節の草花が生けである木造建築には、各種電化製品が常備され、アメニティが揃う快適な生活空間でした。敷地内に位置する各小舎制施設も木のぬくもりに温かさを感じます。大学生であった当時私が経験した児童養護施設の建物とは全く異なり、家族的な雰囲気や漂う園舎には、子どもたちの安全が担保されていました。一方で数十年前と今も変わらないことの一つに職員員の「子どもへのまなざし」がありました。栄光園のある職員が「卒園生が遊びに来てくれてます。」と満面の笑みで話されました。その笑顔と大学生の時に出会った職員さんの笑顔が重なって映ります。この笑顔に子どもたちの安心感は宿ります。安全な建物の中にあつて、職員一人ひとりの「まなざし」が安心な環境として新たに創造されます。栄光園の「まなざし」の精神に教えられ、園舎で子どもたちの元気な声と共に朝を迎えることができ、心は感謝で満たされました。



児童養護施設

ウェストホーム 大切にしている思い

保育士 後藤 真平

ウェストホームは、昨年度までは中高生主体のホームでしたが、今年度からは幼児男児1名、小学生男児4名での新体制として生活が始まり2ヶ月が経過しました。

子どもたちは同年代ということもあり時には多少のトラブルもありますが、子どもたち同士が切磋琢磨しあい、日々成長しています。

さて、現在ホーム児童全員が週に1度地域のスイミングスクールに通っており、全身を使ったスポーツとして励んでいます。これは自己統制に基づく「感情」と「全身」のコントロールを身に付けて、スポーツから経験・習得する内外的な成長への期待も視野に入れています。子どもたちはスイミングを楽しみにしています。中には入会して数ヶ月で進級した児童も居り意欲的に取り組んでいることが見て取れます。

日々の学校や習い事でストレスフルな生活にならないよう、ホーム児童全員で地域の公園や日用品の買い物に出かけたりします。一般家庭ではよく見受けられる何気ない日常の場面も、子どもたちにとっては「お出かけ」として笑顔で出かけていきます。子どもたちには、一般家庭と遜色のない有意義な

体験や経験をさせてあげたいという思いがあります。このような日常の出来事が子どもたちにとっては「特別な日」としてモチベーションを高める経験となっています。

子どもたち一人ひとりのニーズや思いに沿って接し、時には厳しく道を正す場面もありますが、きつと子どもたちには「愛情」として伝わっていると信じています。

キャサリンホーム 経験を積み重ねて

保育士 神野 怜央

現在キャサリンホームでは、小学生1名、中学生2名、高校生2名の計5名の男児が生活しています。

私が配属された頃は全員小学生のホームであり、当時小学5年生であった児童は現在就職試験を控える高校3年生となりました。毎朝の見送り、登校していく背中を見ては成長を感じ感慨深く思う日々です。

在園児一人ひとりが様々な課題を抱えています。他機関との連携を図りながら、社会性やコミュニケーションスキルの向上等、自立に向けた支援をおこなっています。また、園内での生活だけでなく、積極的に地域へ出ることで、公共交通機関の利用方法や買い物の仕方等を自然と身に付けられるよう社会体験を積み重ねています。

社会へと巣立つと、より様々な問題に直面し思い悩むことでしょう。それを『失敗』ではなく『経験』として捉えるマインドで乗り越えられる大人へと

成長してほしいものです。私たちは児童に沢山の経験の場を提供し、さらに私たち養育者が児童にとってのモデルで在ることの責任を常日頃より感じながら子どもたちと向き合っていきたいと思えます。

乳児院



暑さも日々増していき、本格的な夏もすぐそこまで来ているようです。新型コロナウイルスが5類となり、子どもたちは、少しずつ園外へ遊びに出かけることが増えてきました。今後も色々な体験ができるようにたくさんの行事を計画していこうと思えます。

スプーンを使えるようになったよ

りすグループ 保育士 井上 梨星菜

りすグループは、現在6名(4ヶ月〜1歳10ヶ月)の子どもが生活しています。月齢差があるので、発達に合わせた援助を行うように、心掛けています。

Aくん(1歳6ヶ月)は、食事の際にスプーンで食べ褒められていたが、友だちがスプーンに興味を持ち始めました。始めは口にくわえたり、投げて遊んだりするだけでしたが、一度保育者と一緒



にご飯をすくってみると、自分で口に運ぶことが出来ました。「上手に出来たね」と

褒めると、Aくんも嬉しそうに手を叩き、喜びました。すると、次からは自分でご飯をすくって食べるようになり、今では手伝うと嫌がり、自分でしたい」とやる気がみなぎっています。このような一つひとつの成長に目を向け、子どもの「やってみたい」という気持ちを尊重していきたいです。

たくさん身体を動かして遊ぶよ

うさぎグループ 浅野 香寿美

うさぎグループは、1歳5ヶ月から2歳7ヶ月の子どもが生活しています。



毎日たくさん身体を動かして遊び、最近では、シャボン玉を飛ばせるようになったり、鉄棒にぶら下がれるようになったりと、日々成長を感じます。自分でシャボン玉の容器を持って液を付けると、左右に振ってたくさん飛ばすことが出来ます。グラウンドでシャボン玉を飛ばすと、「待てー」と言いながら追いかけて、遊びを楽しみむ子どもたち。また、数か月前までは、鉄棒にぶら下がっても2〜3秒で手を離してしまいましたが、最近では10秒以上ぶら下がることが出来るようになりました。

昨日出来なかったことが今日出来る

ようになり、成長に驚かされる毎日です。これからも、子どもの身体的発達を促していく遊びを展開し、子どもたちが生き生きと自発的に活動ができるように援助していきます。

皆で食べたお弁当が美味しかったね

ぞうグループ 保育士 相良 智美

久しぶりにみんなでラクテンチに遊びに行きました。大好きな担当職員と車に乗ってお出かけすることがとても嬉しいようです。

乗り物コーナーでは、初めての遊園地で緊張のせいも、表情も強張り固まっていたのですが、一緒に乗り始めると次第に「あつちがいい」「こつちがいい」と目を輝かせて、職員の手を引っ張っていました。動物コーナーでは、怖くて見ているだけの子どももいましたが、餌をあげたり抱っこをするなど触れ合うこともできました。さらに、リュックサックに入れて持って行ったお弁当は格別でした。いつもと違う景色に囲まれ、とても美味しそうに食べていました。帰りには、ほんの少しのドライブでしたが、疲れてぐっすり眠っていました。

新型コロナウイルス感染拡大でできなかったことを、これからたくさん経験して楽しめるように、計画を立てていきたいと思っています。



子どもたちの笑顔と笑い声

施設長 安西 恵子

コロナも5類になり園外に散歩に出掛けることが多くなりました。

公園に行きベビーカーで散歩を楽しんだり大きな遊具で遊んだり、お買い物体験をできるように、毎日大はしゃぎ。乳児院に戻ると「あんざいちゃん見て！見て！」と、散歩で拾った石の宝物、スーパールのレジでシールを貼ってもらったお菓子を嬉しそうに大切に持ちながら見せてくれています。コロナが流行する前は日常的に出来ていた体験が、まだ沢山あります。今まで出来なかった分を取り戻し、沢山の体験をしてもらいたいと思っています。

保育者はマスクを外すことが多くなり、子どもたちに笑顔を見せられるようになりました。マスクを外した保育者の顔を見た瞬間の子どもたちの驚き、人見知りで泣いてしまう子どももいました。慣れてくると大きな声で笑い合う日々、こんな日が来るなんて子どもたちの笑顔に癒される毎日です。

さて、今年度より院内で療育を行うようになりました。理学療法士と言語聴覚士の先生方が月2回入り、子どもたちと遊びながら療育を行います。成長発達に合わせながら、より良い成長を促すように先生方と保育者が話し合いながら行っています。先生方は、子どもたちを引き付けるのがとても上手いので、子どもたちは楽しい時間を過ごしています。先生方に感謝です。

青山保育所

親子でお出かけ！

保育士 荒金 由妃

先日、親子歓迎遠足がありました。うさぎ組0歳児は親子そろっての初めての行事でした。当日は、雲の間から時折晴れ間が見え隠れする過ごしやすいつ候で、ウトウトとかわいらしい寝顔で居眠りをするお友だちもいました。



遠足では、保育士の紹介やスタンブラリー、クラスごとでお友だち紹介などが行われました。うさぎ組のお友だちはおうちの方に抱かれています。時間が長かったかと思いますが、子どもたちにとっては安心して腕の中にいたことでリラックスして参加することができたことと思います。また今回の遠足は全員が参加することができ、おうちの方同士で話している姿も見られ、交流の場になっていたようです。

保育参観がありました

保育士 清原 里奈

ぞう組4・5歳児のクラスは、保育参観に向けてお店屋さんごっこを題材に遊びました。子どもたちは当日にお

父さんお母さんが自分たちのお店屋さんに来てくれることをとても楽しみにしています。やる気を持って取り組んでいました。子どもたちみんなの意見をまとめて、1〜3階にフロア分けをするにし、意見として出た「ゆめタウン」の設定を取り入れ、お店を考えました。



それぞれ選んだお店でグループを作り、「どんなお店にしようかな」「何が必要かなあ」と子どもたちと一緒にいろいろな意見を出し合いました。お店づくりの始まりです。廃材や折り紙などを使い、イメージを膨らませながら様々な品物を作っていました。品物が少しずつ出来上がるとお店の飾りや看板などディスプレイにもこだわりを見せていました。

オープン当日は、はりきってお店屋さんをしたり、親子で楽しそうに買い物をする姿が印象的でした。子どもの豊かな発想に驚かされながら、どのグループも素敵なお店になりました。

雨の日も楽しいなあ

保育士 薬師寺 良

ぱんだ組1・2歳児のお友だちは雨で園庭に出られない日は、テラスでシャボン玉をしたり、室内で新聞紙遊びを

したりしました。しゃぼん玉遊びでは、しゃぼん玉を吹いて、追いかけたり、じつと見つめたりして興味津々の子どもたちでした。新聞紙遊びでは丸めてボールにしたり、保育士が洋服や剣を作ると、それを真似して自分たちで作ってみようとしていたりする姿がありました。所々保育士が援助しながらですが、よく特徴をとらえて作っている様子があり、頭の中にイメージしながら作っているのを感じました。今後も新聞紙だけではなく様々な素材を使い、感触遊びを楽しんだり、自分なりに作る楽しさを感じられる活動を取り入れたいと思っています。

梅シロップづくり



保育士 渡邊 歩

別府市役所さんから市内の公園で出来た梅の実をたくさん頂きました。その梅の実を使って、きりん組3歳児のお友だちは梅シロップづくりに挑戦しました。朝から保育室に梅の実を置いておくと、みんな興味津々に見たり、においを嗅いだり、触れてみたりしていました。シロップづくりでは、工程表のイラストを見ながら、梅の実のヘタを爪楊枝で取り除いたり実の穴をあけたりし、大きなビンに氷砂糖と一緒に入れていきました。ビンの中の氷砂糖が溶けたらシロップの完成ですが、出来上がりはもう少し先です。保育室に置いているビンを眺めながら、ジュースを飲める日を楽しみに待っている子どもたちでした。

野口保育所

主任保育士 末吉 佳奈

新年度がスタートして3ヶ月が経ちました。子どもたちは、毎日友だちや保育士と一緒に楽しく過ごしています。7月からは、子どもたちが楽しみにしていたプールや水遊びなど夏ならではの遊びも始まります。子どもたちの様子を少しずつですが、お伝えします。

子どもの日



今年、各クラスで「子どもの日」の由来を聞いたり制作や遊びを取り入れ過ぎました。園庭の大きなこいのぼりに子どもたちは大喜び!



「子どもの日」のお楽しみ給食やおやつは子どもたちの好きな物ばかりでも喜んでいました。

野菜の苗植えをしたよ!

今年食育の一環として、2歳児は、ミニトマト、3・4・5歳児はクラスで育てたい野菜として、ミニトマト・きゅうりの苗植えをしました。子どもたちは自分たちが植えた苗に毎日水をあげ観察して収穫できる日を楽しみにしています。

るようです。「食育を通して楽しく食事をする保育」を目標にこれから野菜の生長や収穫を通して、食べ物の大切さや収穫の楽しみなどを知ってもらえたら嬉しいと思います。



保育参観

今年度最初の保育参観を6月8日、9日に行いました。保育所での子どもたちの様子をお家の方に見ていただき、ゆつくりお話することが出来ました。お家の方と一緒に過ごす子どもたちは笑顔でとても嬉しそうでした。

次回は、2月に行う予定なので、また成長した姿を見て頂けるように日々の保育を頑張っていきたいと思います。



園内研修

保育心理カウンセラーについて

九州産業大学子ども教育学科の阿部敬信先生において頂き、今年度は青山保育所と一緒に子ども一人一人を大切に丁寧な保育を目指して、テーマに研究保育を行い、園全体で勉強しています。また法人内の保育心理カウンセラーの井生浩之さんにもおいで頂き、保育園の職員間の連携をより深めたり、園児の気持ちに気付けるように勉強しています。

阿部先生や井生心理士、ご家庭と保育園が手を取りあって、子どもたちが、よりよい育ちに向かっているように助言をいただきながら、支援していきたいです。

絵本の大切さ



まだ言葉が分からない乳幼児期から色々な絵本を読んであげることで、感情が芽生えて、感性豊かな子どもが育つといわれています。

私は、今年1歳児の担任をしていて、上手く言葉が言えなかったり、まだ言葉の理解が上手く出来ない子どもたちにも、絵本が良いのか、何の絵本を



読んであげようかなと悩んでしまう時があります。絵本の中でも1歳児が楽しめる言葉のリズム感ある絵本を選び、読んであげると子どもたちは大変喜んでくれます。何度も繰り返し読むことで言葉をリズムよく一緒に言ってくれたり、子どもたちが絵本読んで！と絵本を持ってきてくれるようになりました。そんな場面を経験し、絵本の大切さを日々感じています。これからも子どもたちに色々な絵本に興味を持ってもらえるように私自身もたくさん絵本を読んでいきたいと思っています。

研修会で学んだこと

保育士 溝部 知賢



先日、大分県新任職員研修会と法人の新任研修会に参加しました。大分県新任職員研修会では、子どもたちをたくさん認めていくことが子どもたちの自己肯定感にもつながることや、実際保育する中で子どもたちの予想される行動を自分で考えることで保育士としての引き出しを増やしていけることも知りました。法人の新任研修会では、各施設それぞれの特徴を知り、それぞれの施設ごとの年齢の異なる子どもたちへの関わり方の違いなども知るこ

とが出来ました。これから学んだことを少しずつ保育に生かせるように責任を持って頑張っていきたいと思っています。

地域交流事業 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

4月は「春のレクリエーション」でポッチャを楽しみました

今年度初の集いの場くるみでは、ポッチャを楽しみました。4グループに分かれての総当たり戦でポッチャを楽しみました。



はじめはおそろおそろボールを投げていた子どもも試合を重ねていくうちにジャックボールに向かって思いっきりボールを投げて楽しんでいました。ポッチャのルールもわかり、作戦会議を行っていくなど子どもたちが熱中し笑顔で楽しむ時間となりました。

おもちゃライブラリーでも遊びました

思い思いに好きなおもちゃで遊んだり、「スピードカッパス」「クワルト」などのゲームで対戦を楽しんでいました。一人で楽しむゲームでは味わえ



ない面白さを経験したのではないでしょう。笑顔や笑い声であふれる時間となりました。

5月は「大塚由紀子先生においでいただき」でリズムを体験しました

「What your name?」「My name is ○○○」と慣れない英語にときまぎしながらもみんな頑張って自己紹介してくれました。その後も、いろいろなゲームを楽しみ、「はらぺこあおむし」の読み聞かせをしていただきました。

最後は、工作「虹」の作成の後みんな「虹」を歌って終わりました。30年近く歌い継がれてきた曲だけあって心にじんときこるいい曲でした。今後も定期的なリトミックを体験する機会を設けようと考えています。皆で音楽を楽しみましょう。



内成で大きくなつてね オオイトササンショウウオ

昨年度2月の椎茸のコマ打ち体験の際訪れた、内成でオオイトササンショウウオの卵を発見し、園に卵を持ち帰り、成長を観察しました。卵から幼生、幼生からオオイトササンショウウオの成体までの成長を4か月間、間近で見守ってまいりました。最後に卵から幼生になった個体は、とても小さくかなり長い間幼生の姿でしたが、内成に帰す日を



知っていたかのようにすべての個体が大人の姿になっていました。

今回は、小学校3年生までの児童8名で内成に帰しに行ってきた。涼しくて気持ちのいい山里の冷たいきれいな水が流れている内成の豊かな自然環境の中に1匹ずつ帰りました。自然の中でたくましく生きていってほしいと願いながら内成を後にしました。

6月は、内成の棚田で田植え体験会に参加しました

6月25日、「内成棚田の会」が開催する田植え体験会に参加しました。

小学校4年生から6年生の4名が参加。子どもたちは、田植えは初めてで水を張った田んぼを前に戸惑い、どうしようという表情をしていましたが、覚悟を決めて泥の中に入っていききました。そして、田植えの説明を受けて上手に稲を植えていました。中には、泥の感触が苦手でゴム手袋を使った子どももいましたが、最後まで頑張った子どももいました。どの子どもも田んぼから出てきたときには、達成感に満ちた豊かな表情でした。参加した大人も子どもも皆、米作りの大変さを実感したようです。有難くご飯を頂きましょう。良い食育活動となりました。



子どもにとってどのような養育環境が好ましいと考えるか

第4回法人型ファミリーホーム研究会総会・研修会 大分大会
開催日：6月19日～20日
開催場所：オンラインと会場 児童養護施設栄光園のホール
参加費はハイブリッド方式

法人型ファミリーホーム研究会は立ち上げて3年目に入ります。今回は大分大会です。

児童福祉法では、子育てのベースは家庭であり、崩壊家庭を修復することを前提としつつも里親家庭こそ健全な家庭に近いとの見解、そして諸外国との里親率の比較から社会的養育の必要な子どもたちの里親率向上に努めています。

しかし、里親家庭の増加は伸び悩み、種々の事情から、そこで生活している子どもたちを施設でお預かりするレスパイトサービスの需要は途絶えません。

戦後から施設で培ってきた養育の専門性を生かして法人がファミリーホームを実施するメリットを考えますと、①養育文化を伝承できる可能性があること、②愛着の回復には個人の力では負担が大きいく複数の人の支援を必要とすること、③法人型ファミリーホームが個人型ファミリーホームや里親の具体的な仲間として支え合うことも可能ではないかと考えるのです。

今後とも、子育ての最善の環境や方法は、未知の未来社会を担わなければならない子どもたちの成長を考えれば、養育者が改善の努力を続けるほかないの思いもあります。

今回も、施設養育と里親養育の連携の在り方、海外での養育方法の一端としてのソーシャルペタゴジーの実践、そして施設職員からファミリーホームを立ち上げた実践報告を交えて、法人型ファミ

リーホームの研究をする意義等を踏まえ、考え方を整理・検討しながら、子どもにとってより好ましい養育環境の在り方を考えてきました。

実際、現代社会は戦後からの核家族化、未婚化による単身または極小グループでの生活単位など流動的な家庭形態の変化する時代でもあります。そのため、共同生活体験不足から生じやすい日常生活の中での、支え合い・譲り合い・助け合い・与え合いなどを経験する機会が社会生活を住みやすくするうえでも求められているといえます。また、生活家族の単位が5〜10名くらいのグループであれば、日常生活での相互理解や自立に向けての課題の学習体験がグループワークとして個人の成長や巣立つ上での礎となりますし、病気や災害等に対する危機管理のこと等を考えれば、ファミリーホームの規模こそ検討に値する適切な家庭サイズ的环境中ではないかと思われるのです。

実際、このようなことを考えながら、次の方たちから講演のご協力をいただきました。感謝です。(江口敏一)

●基調講演

「法人型ファミリーホームの将来展望」

バット博士記念ホーム施設長/研究会会長 宮本 和武氏

●講演

「施設養育と里親養育の連続性を家族中心に考える」

社会福祉法人 清浄園 「和」やわらぎ 古屋 康博氏

●講演

「ソーシャルペタゴジー～理論から実践へ～」

福岡県立大学 特任教授 細井 勇氏

●講演

「法人型ファミリーホームの意義と展望」

大分大学 教授 相澤 仁氏

●実践報告

「大分県内でのファミリーホーム開設経験から」

大分県ファミリーホーム協議会 佐藤 哲造氏

聖書の言葉

イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

別府不老町教会伝道師 尾崎 二郎

(ヨハネによる福音書20章29節)

イエス様が十字架の死から復活して、弟子たちに出会われた時、弟子のトマスは、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」と言って、その方がイエス様その人であることを安易に信じようとはしませんでした。

今は私たちの目には見えないイエス様を信じて、イエス様と共に歩む人は幸いです。それは、私が牧師であるからという理由だけでそう言っているのではなく、私自身も、そう信じて毎日を送っていて幸いであるからそう言っているのです。

何が幸いであるかは、この様に個人の体験や思いに依存した主観的な物事とも言えますが、一方で時代の風潮に左右され支配される社会的な物事とも言えるでしょう。

今、テレビ中継を通して、大リーグの大谷翔平選手の活躍が、日本にいる大勢の人々に日々見られるという事は幸いです。アナウンサーもサポーターも口をそろえて、その活躍ぶりを絶賛するので、そこに一人幸いを感じないでいることが却って悪いことのように受け取られる場合もあるでしょう。そこには一つの幸いの形が、社会的に形作られているのです。

教会では、目に見える幸いと同じように、目に見えない幸いということも大切に

にしています。そもそも、信仰も希望も愛も、目には見えない物事なのではないでしょうか。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」(コリントの信徒への手紙二4章18節)このようにパウロは言いました。

教会は、目に見えない物事にまつわる幸いを、言葉を通してしみじみと味わい、みんなが共有して、その幸いを浸透させている処です。その場所の中心には目には見えないイエス様がおられるのです。

それでは教会が、目に見える物事の幸いを疎かにしているのかと言うと、全くそうではありません。なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。(マタイによる福音書6章28〜29節)イエス様はこの様に、人目を引くために着飾ったソロモン王よりも、野の花の美しさのほうに目を向けられます。

先日、栄光園に伺って、オオイタサンシヨウウオが孵化して飼われているのを見て、私は幸いでした。そして今は故郷、内成の田んぼに戻され、生活している姿を想像して幸いです。

法人単位資金収支計算書

自 令和4年4月1日 ~ 至 令和5年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入			
	児童福祉事業収入	459,820,000	473,518,039	▲13,698,039
	保育事業収入	195,173,500	197,412,579	▲2,239,079
	経常経費寄附金収入	3,953,000	4,331,458	▲378,458
	借入金利息補助金収入	0	0	0
	受取利息配当金収入	15,000	11,173	3,827
	その他の収入	5,388,000	7,148,049	▲1,760,049
	事業活動収入計(1)	664,349,500	682,421,298	▲18,071,798
	支出			
	人件費支出	541,080,320	540,389,512	690,808
事業費支出	70,448,180	70,757,261	▲309,081	
事務費支出	31,748,000	33,273,230	▲1,525,230	
その他の支出	0	2,254,635	▲2,254,635	
事業活動支出計(2)	643,276,500	646,674,638	▲3,398,138	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	21,073,000	35,746,660	▲14,673,660	
施設整備等による収支	収入			
	固定資産売却収入	0	0	0
	施設整備等収入計(4)	0	0	0
	支出			
固定資産取得支出	6,102,000	4,471,773	1,630,227	
施設整備等支出計(5)	6,102,000	4,471,773	1,630,227	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	▲6,102,000	▲4,471,773	▲1,630,227	
その他の活動による収支	収入			
	その他の活動による収入	2,060,000	2,239,910	▲179,910
	その他の活動収入計(7)	2,060,000	2,239,910	▲179,910
	支出			
	積立資産支出	17,031,000	31,909,340	▲14,878,340
	その他の活動支出計(8)	17,031,000	31,909,340	▲14,878,340
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	▲14,971,000	▲29,669,430	14,698,430	
予備費支出(10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	1,605,457	▲1,605,457	
前期末支払資金残高(12)	178,393,970	178,393,970	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)	178,393,970	179,999,427	▲1,605,457	

2022年度寄付・招待・奉仕報告

項目	協力者人数	金額
賛助金	39名	1,267,000円
	子どもの養育の事業費等	
一般寄付	62名	2,592,458円
	高校生の部活 児童の習い事及び社会体験	
自立進学資金	17名	507,000円
	卒園者自立生活支援(無利子貸付と返済)金	
特別物品寄付 招待・奉仕	221名	
	農作物・菓子類寄付・コンサート招待・手廻り・学習ボランティア・散髪等・くろみボランティア	
計	271名	4,366,458円

社会福祉法人 栄光園

評議員選任解任委員会

安東 秀典 滝口 真
岡部 光瑞 桑野 誠
吉本 安宏



役員

理事長 江口 敏一
理事 島田 晉
理事 猪股 通安
理事 近藤 功
理事 中島知夏子
理事 本庄 智宏
監事 吉本 安宏
監事 滝口 真

評議員

評議員 友永 丈一
評議員 山名 睦子
評議員 長野 哲也
評議員 細井 勇
評議員 平野紀美代
評議員 影山 隆之
評議員 文屋 典子

事業報告

乳児院

院長 安西 恵子

管理運営

●人事及び職員構成

- 2022年度
新規採用 2022年4月 保育士2名
2022年1月 調理師1名
- 2023年度
新規採用 2023年4月 保育士3名 心理士1名
育児休暇中 保育士1名
- 2023年度職員配置状況 42名(嘱託医を含む)
- 入退所児童状況(定員20名)
●2023年7月1日現在 措置児童…7名 一時保護…6名
●2022年度 入所人数…17名 退所人数…13名
ショートステイ・トワイライト受け入れ件数59件 延べ日数291日
里親レスパイト 受け入れ件数18件 延べ日数36日

野口保育所

所長 工藤 直子

管理運営

●人事及び職員構成

退職者なし
育児休暇なし

- 2022年4月1日職員配置
施設長1名 主任保育士1名
保育士…正規職員9名/パート職員2名
栄養士…正規職員2名 調理員…パート職員1名
嘱託医…2名(内科・歯科)

●入所児童(定員60名)

	4月在籍数	3月在籍数
2022年度	53名	57名
2023年度	42名	

児童養護施設

施設長 岡田 豊弘

管理運営

●人事及び職員構成について

- 2022年度
新規採用者…1名(児童指導員1名)
退職者…5名(保育士2名、児童指導員2名、調理員等1名)
- 2023年度
新規採用者…5名(保育士2名、児童指導員3名)

2023年度 職員配置

【本体施設・地域小規模児童養護施設】

施設長1名、総主任/個別対応職員1名、事務主任1名、ケアワーカー 27名(児童指導員12名、保育士13名、調理員等2名)、臨床心理士1名、管理栄養士1名、看護師1名、家庭支援専門相談員2名、里親支援専門相談員1名、職業指導員1名、地域支援コーディネーター 1名、嘱託医(1名)、食育SV(1名) 計38名

◆児童について

児童在籍者数31名(2023年7月1日時点、進学による措置延長者1名含む)
(本園26名・地域小規模5名)

青山保育所

所長 本庄 智宏

管理運営

●人事及び職員構成

(2022年度) 採用者…保育士1名・看護師1名
栄養士1名・調理員1名
退職者…保育士1名・栄養士1名
調理員1名

●入所児童(定員90名)

	4月在籍数	3月在籍数
2022年度	76名	89名
2023年度	74名	

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

【2023年4月1日より2023年6月30日まで】

賛助金

- 安部道人様 大分市
- 安東秀典様 大分市
- 大内英明様 大分市
- 岡口文明様 大分市
- 川村隼秋様 大分市
- 立花旦子様 大分市
- 津田眞五様 大分市
- 帆足和生様 別府市
- 松本小児科医院 松本重孝様 別府市
- 松本常圃様 別府市
- 松本洋子様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市

一般寄付

- 岩田智子様 大分市
- B混記念合唱団クルあおやま様 別府市
- 匿名名様 別府市
- 匿名名様 別府市
- 八代会会長 中根秀徳様 別府市
- 協力者 首藤広文様・中根伸一様 別府市
- 角野勝久様・河野一昭様 別府市
- 佐藤義弘様・浅野誠三郎様 別府市
- 佐藤聖二郎様・嶋田德行様 別府市
- 松尾拓也様・穴井伸一様 別府市
- A J E T様 宇佐市

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- 神鳥慶子様 杵築市

特別物品寄付

- 齋藤正治・康代様 日出町
- 平川順子様 別府市
- 山口香様 別府市
- 新玉ねぎ・じゃがいも NPO法人 びぎの会様
- パン SHIBA B.A.S.E様
- 一六タルト 浅海重子様
- 衣類/髪留め 安東秀典様
- 粉ミルク、小麦粉等 池田順行様
- パン 石窯工房モコモコ別府店様
- 玉葱・じゃがいも 伊藤一幸様
- 甘夏 上杉敬三様
- ランドセルラック・ベットマット 前原省吾様
- 米 大住建販(有) 代表取締役社長 荻原書籍様
- 文具券 (株)信和様
- 箸 (株)兵左衛門
- キンパ 韓国家庭料理 あい様
- わらび餅 甘味処 鎌倉 別府鉄輪温泉店様
- 洋服 隈井賀子様
- わらび餅 黒木正道様
- パン ココラート様
- 米 後藤としみ(まえはら薬局)様
- 米 後藤正己様
- イチゴミルク イチゴミルクセンター(有) 後藤慶太郎様
- カレーフレイク 三和商事(株) 松村有格様
- お菓子(こどもの日) 柴田佳代子様
- お菓子 首藤利之様
- そうめん 菅信介様
- お菓子 ダイヤモンドグループ(株)様
- 洋服・髪留めなど 匿名名様
- 大根・じゃがいも・にんじん・とうもろこし・きゅうり・枝豆・人参 高橋恵一様
- 皇帝ダリア 苗 竹内富美雄様
- 衣類 立山愛様
- 衣類 谷まい様
- 衣類洗剤等 匿名名様
- お菓子 匿名名様
- 衣類 匿名名様
- パン 友永パン様

招待・奉仕

- 本・ノート 長田志誠様
- みかん・イチゴ・スイカ 中山田正春様
- 洋服 西田妃都美様
- 自転車 野田利恵様
- 日興パレスグランテージ別府管理組合
- 洋服・髪留めなど 横山啓子様
- 日本生命保険相互会社 日本恵教会様
- お菓子 美容室アイワ様
- 女児用下着 福井淳介様
- 衣類 福井淳介様
- 衣類 古川泰征様
- 食料(卵・野菜・果物・米) フルゴスペルイエスキリスト教会様
- 米 前田綾子様
- 衣類 真鍋正二様
- ガーゼタオル 水江典子様
- 洋服 匿名名様
- たけのこ・うめ・びわ 二宮洋典様
- たけのこ掘り びぎの会様
- 集いの場くるみ ボランティア
- 金曜学校 平川義文・平川順子様
- 書道 尾崎二郎様
- 散髪奉仕 WEST VILLAGE 西村大輔様
- 散髪奉仕 ビューティモア 中村雄一様
- 散髪奉仕 Hair Salon Aiwa 立川奈美様

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割も可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務局は、別府市南荘園町3組です。
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

郵便局での振込は左記までお願いします。
口座名義 社会福祉法人 栄光園
口座番号 0193301220748

栄光園祭り

グレースホームの集い

コロナ禍により3年間実施できていなかったグレースホームの集いを今回、「栄光園祭り」として開催することになりました。今年度末には、長年栄光園の象徴でもある、広いグラウンドに乳幼児総合支援センターが開設されます。栄光園を巣立った卒園生の方、現在、栄光園で暮らしている子どもたち、またこれまで長く支援してくださっている支援者の方々にも最後に目にする栄光園グラウンドの光景となります。

よって今回は、乳幼児の子どもたち、児童養護の子どもたち、卒園生、支援者の方々、オール栄光園として、「栄光園祭り」を開催します。

8月20日(日)16時より グラウンド付近にて開催します。

お気軽においでください。事前に電話をいただければ助かります。もちろん参加費は無料です。思い出もブライスレスです。お志等も固く辞退させていただきます。



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

昨年度より内成に度々いかせていただく機会を得て、椎茸のコマ打ち体験やオオイトサシシウウオを育てる経験、田植え体験をさせていただきました。決して便利な場所ではありませんが、ゆったりと時間も大人の私たちにとても幸せな時間でした。そんな時間を持てるよう工夫して生活していきたいと思えます。(原田)